

実現しました

多摩川の公園で多世代が安全に楽しく快適に！

「稲田多摩川公園」の整備実現と「登戸地区広場」の活用

多摩区は水と緑。ふるさと多摩川の環境を守りつつ、人命を守る治水と水辺に親しむ利水によって、子どもから高齢の方々まで多世代が安全に憩える素敵な河川敷となるよう取り組んでいます。

① 再整備にあたり管理運営協議会の皆さまと長年一緒に取り組んだ稲田多摩川公園。待望の水洗トイレ（洪水時などに撤去・復旧が可能な常設移動式）も設置しこのほど完成。ご希望の倉庫の再設置も地主さんの快諾により無償で実現！関係各位に深謝です。② 隣地となる暫定公園。当初市は国に返却する予定が「もったいない。市民活用の場として確保すべき」と議会で質した結果、返却せずこのたび「登戸地区公園」に。市、地域の方々、若者などが一体となり有効活用を図る取組みを提言、昨年11月子どもや若者に人気のスケートボードパークなどの実証実験も兼ねたイベント「カワノバ」を開催。12月議会でさらなる実証実験と、地域との連携を深める取組を提言。現場で行政と地域の方をお繋ぎし現在「カワノバ」会議が進行中。実現に向け動きまします！



カワノバ スケートボードの実証実験

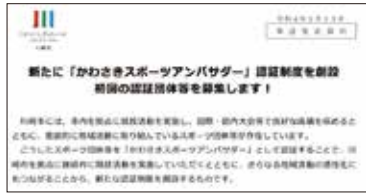
常設移動式トイレ

多摩区の誇り・新田ボクシングジムさんのお声から「かわさきスポーツアンバサダー」創設へ！

「かわさきスポーツパートナー」への登録をご希望されていた新田ボクシングジムさん。ご相談を受けて令和2年12月議会で質問。複数のチャンピオンを経年して有する実績はもとより地域への社会貢献度も抜群。スポーツパートナーとして認めないのはおかしいと指摘。その後も継続して議論してきた結果、令和4年1月1日付けで新たに「かわさきスポーツアンバサダー」の創設に至った。新田ボクシングジムさんは登録申請の手続き中。晴れて認証されるのが待ち遠しいです！



令和2年10月 市議会控室にて新田ボクシングジム会長・新田さんと



基本政策 若者の声を政策に。吉沢 & 多摩区の高校生による「高校生課」提案から7年。川崎ワカモノ未来プロジェクトが内閣府特命担当大臣表彰を受賞！

現役高校生と吉沢による「高校生課」の提案から、地域の協力を得ながら自分の身の回りや地域、社会の未来づくりにチャレンジする川崎ワカモノ未来プロジェクトが発足し、6年目となった。参加者だった高校生が大学生となり、支える側として団体を立ち上げ新たな活動も展開されている。12月議会では今後の展開を質し、市内の高校・大学との連携を深め、若者の社会参加の機会を増やし、地域に溶け込む、より多彩で創造的な活動を推進するとの答弁。さらに提案を続け政策を育てます。



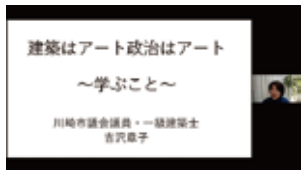
平成27年高校生課を市長に提案



活動報告

明星大学建築学部にて講義をさせて頂きました

登戸土地区画整理事業を縁にご依頼を受け、吉沢の基本政策である「環境共生都市」から防災・減災対策、建築物環境評価制度（CASBEEかわさき）および川崎ワカモノプロジェクトなど、市の政策を紹介しつつ「建築はアート政治はアート」として100名を超える学生に向け、リモートで講義をさせて頂きました。登戸土地区画整理事業・若者の行政参加への質問もあり、貴重な機会となりました。感謝です。



リモートで講義

明治大学生からインタビューを受けました

「若者の政治離れと新しいメディアの可能性について」卒業制作（ドキュメンタリー映像）の取材依頼がありました。若者の政治行政参加は吉沢のテーマ。現場である大学生と、若者の政治・行政参加のあり方について意見交換もでき、若者の可能性を改めて感じるとても有意義な時間となりました。



吉沢事務所にて



2022 Vol.23 eco+akiko

吉沢章子通信

http://yoshizawa-akiko.jp 川崎市議会議員 一級建築士

無所属

ごあいさつ

みなさまこんにちは。新型コロナウイルス感染症の終焉が見通せないなか、それぞれのお立場でご努力頂いていることに心より感謝申し上げます。一日も早い終息を期し、出来ることを続けてまいります。さて、世界的なパンデミックが続く一方で、やはり気になるのが地球規模での災害です。昨年、国連IPCCはようやく激甚化する台風などの気象災害が人為的な気候変動によるもの、つまり私たち人類が原因であると認めました。また、1月15日にはトンガで大規模な火山噴火が起き、地球が火山や地震の活動期にあり、日本もその例外でない事を改めて思い知ったところです。では、私たちはどうすれば良いのでしょうか？いつも申し上げておりますとおり「むやみに怖がらず、正しく恐れ、侮らない」ことを実行してまいります。そこで今号では「身近でリアルな備蓄」を特集しました。お役立て頂ければ幸いです。議会報告・多摩区の政策実現などについても掲載しておりますのでご一読下さい。2022年、吉沢章子年初の漢字は「息」です。呼吸は生きる基。吐く息で不安を吐き出し、吸う息で新鮮な空気を細胞の隅々にまで届け、心も体も健やかに保ちたいものです。



備蓄について考えよう！

災害がおきたら避難所に行けばなんとかなる？

その考えちょっと待って

災害発生時一番大切なのは身を守る避難行動です。潰れず、流されず、安全な建物として家が残ったら自宅での避難、自助を考えましょう。自助に必要なものが備蓄です。



水の備え

1人1日3ℓ × 家族数 × 7日間  
4人家族なら1日12ℓ × 7日 = 84ℓ

災害時川崎市全市で稼働できる給水車は6台  
2トン×3台 4トン×2台 3トン1台（医療施設など優先順位の高い所へ） 市民向けは応急給水拠点（ハザードマップなどに掲載。一度ご確認ください。）  
学校などの避難所にある貯水槽 帰宅困難者用、地震発災が在学中の時児童生徒用の備蓄水

多摩区の人口は現在21万4千人。個人の備えは必須です。

備える目安

トイレの備え

1日に行くトイレの回数 × 家族分 × 7日間 1人1日5回、  
4人家族なら1日20回 × 7日間 = 140回

最近は電気がないと水が流れない便器も多く、災害時でなくても停電すると使用不可となります。また災害時、下水処理場や下水管に損壊、破断などの被害が出ると、お風呂の残り湯などでむやみに流すと大変なことになります。そのため、  
※携帯トイレを用意して使用するのが望ましいです。使用後の携帯トイレは家で保管し、普通ゴミの収集が始まりましたら捨てましょう。

※携帯トイレ（凝固剤と45リットルゴミ袋）

自分や家族の命を守るだけでなく、家が倒壊したり、避難所での生活を余儀なくされる方が安心安全に暮らせるためにも是非日頃から備蓄について考えていきましょう。

備える目安

食べ物の備え

1日3食なので9品 × 家族分 × 7日間  
4人家族なら1日36品 × 7日 = 252品

カンパンやお水だけでは栄養不足に。普段の食事から備蓄する食べ物を考えましょう。おかず、汁物、野菜、果物など摂れるように一食3品くらいと考えてみましょう。  
（カレーが好きな家族はカレーレトルト多めに、パンが好きなならパンの缶詰多めになど）  
※備蓄用の食品を買う時はまず1個購入し、食べて気に入ったら多めに買うのがおすすめです。

備える目安

今回は 防災備蓄収納マスタープランナー・防災士 三原麻弓さんに監修していただきました。

吉沢章子事務所・プロフィール

214-0014  
川崎市多摩区登戸1531 エスポワール II 103  
TEL 044-933-8018 FAX 044-933-8032



Facebook 吉沢章子



Instagram 吉沢章子



Youtube @あっこチャンネル

- S39年 3月14日多摩区に生まれる
- S59年 菊竹清訓建築設計事務所 勤務
- H08年 吉沢章子建築設計事務所 開所
- H15年 川崎市議会議員 初当選
- H29年 川崎市長選挙 出馬
- R01年 川崎市議会議員 5期目当選
- 趣味 サッカードライブ 絵を描く 詩を描く 歌を詠む



# 9月議会報告（決算審査特別委員会・質問）

**生田浄水場が「フロントtown生田」に。長年の提言が実現！さらに多様な地域のお声を反映。**

多摩区にグラウンドを！と一貫して取組み提言を続けた生田浄水場の有効利用。入札不調など紆余曲折を経てようやく令和5年3月の施設全体共用開始（予定）となった。

**川崎市肢体不自由児者父母の会より「交通アクセスの改善」についてご要望があり質問。**

**Q:** 山下川に面する南側の歩道幅員が狭く植栽帯もあり通行が困難。通勤・通学の自転車も多く、以前からの課題でもある。改善すべき。

**A建設緑政局:** 植栽帯の撤去も含めて検討する。また、施設全体として供用後も必要に応じて改善に取り組む。

→ 本来、交通アクセスなど基盤整備については計画当初から関係局を交えて醸成すべきもの。遅きに失している。多様な方が気持ちよく使えるよう、今後も適宜改善を。

※上下水道局へは他にも質問。

**JFEスチール（旧・日本鋼管）が2023年9月に撤退。** 膨大な量の工業用水がと不要となり、産業の転換期を迎えている。上下水道、工業用水道ともに水需要は減少・設備は老朽化。ライフラインの水道、今後どうする？と質問。「**上下水道中期計画（R4年度～7年度対象）**」を策定、その中で示す。財源確保を目的とし、**料金制度の在り方も含めて検討**」との答弁。引き続き議論します！

## 川崎のマイクロプラスチックは全国平均超。川は海の入り口。リバークリーン運動を提案

**Q:** 川崎市のマイクロプラスチックごみ調査の現状は？市民の行動変容につながるわかりやすい広報が必要。見解は？

**A環境局:** 令和2年度から3ヶ年で東京理科大と市内河川を調査中。昨年度の結果は市内7ヶ所全てでマイクロプラスチックを確認。全国平均値を上回った。今年度は発生源調査も行う。結果をSNS・イベントなどを通じわかりやすく市民に伝え普及啓発に取り組む。

**Q:** 多摩川美化活動（一斉清掃）は1回で4.73トンの実績。この2年はコロナで行われていない。1回に人を集めるのではなく、いつでも誰でも気軽にゴミ拾いができる神奈川海岸美化財団のビーチクリーンのような川崎版リバークリーン運動の展開を提案。見解は？

**A環境局:** 市民・事業者が自主的に行う清掃活動は大変重要で令和2年度実績で2,000件を支援。その活動を「ごみ拾いツイッター」等で紹介し市民の輪が広がるよう普及啓発に努める。

### 川崎市の年間ゴミ焼却量と削減目標

平成27年度	平成29年～令和元度	令和2年度 (コロナで家庭ごみ増加)	令和7年 削減目標
37万1270トン	35万6000トン 前後で推移	35万7662トン	33万トン

※焼却灰を埋め立てている浮島埋立て処分場は令和35年に満杯となる試算。できるかぎりゴミの削減に努めましょう。  
 ※環境局へは他に「**環境共生におけるエネルギーの自立の考え方**」について質問。住宅用創エネ・省エネ・蓄エネ機器設置補助金の拡充、災害対策等について議論。

## 市バス経営は火の車。企業債（借金）が右肩上がり+コロナで大打撃。解決は異次元で。

**Q:** 平成29年度から借金（企業債）の発行額が返済（償還額）をはるかに上回り、その後はV字で未返済のお金（未償還残高）が爆増中。コロナ以前に既に借金は急増、さらに令和2年度は対前年度比で88%増の50億7600万円。借金返済（起債償還）の平準化予測と具体策は？人件費の縮減は？

**A交通局:** 令和2年度はコロナの影響により乗車料収入が激減。特別減収対策企業債16億1000万円を発行して補填した。今後は平準化に取組みながら利用形態を踏まえた段階的なダイヤ改正、組織体制の見直しを図る。総人件費の抑制にも努める。

→ バス事業は全国的に厳しい状況。市民の足として持続してゆくために、在り方の検討について学識経験者など形骸化した枠組みではなく、窮状を市民に公開して意見を募る、若者の行政参加事業（市民文化局）に課題提供するなど、次元の違う方法で解決策を見つける事も提案。

### 議会豆知識

川崎市議会の決算審査は常任委員会による「分科会」方式で行われています。吉沢章子は今年、環境委員会に属し、担当局（環境局・港湾局・上下水道局・交通局）に対する質問をしています。



フロントtown生田配置図



令和3年 市議会控室にて 写真中央が川崎市肢体不自由児者の会会長・石橋さん

## 災害ハイリスクの埋立地。避難路は海底トンネル一本のみ。5万人の命を守る提案。

**Q:** 5万人が働く港湾エリア。東扇島から内陸へは海底トンネル1本。災害時、避難車両が集中渋滞しているところに津波が来る最悪の事態が想定される。トンネル自体に支障が生じる可能性も。地震時の通行止めの判断、海路など複数避難路の確保は必須。港湾関係者と避難計画を練り直し日常的な訓練も迅速に実施を！

**A港湾局:** 地震時、川崎港海底トンネルには東扇島の通行車両、首都高閉鎖による迂回車両が集中する渋滞が予測される。津波の規模によっては海水の侵入も。冠水時の二次災害防止のため**進入抑止策を講じ**、関係各所と共有・連絡体制の強化に取り組む。**複数避難路の確保、海上輸送ルート体制の拡充**など関係者とともに臨海部の防災強化に努める。

※港湾局へは他に、**計画策定から11年が経過した川崎港千鳥町再編整備計画**について総括・見直し・第2期計画の策定を提案。運営協議会とともに進めるとの答弁。

## 決算総括質疑

工事請負におけるトラブルの「泣き寝入り」防止措置として、高額な裁判ではなく安価で迅速な「調停」を選択できるように必要な「**仲裁合意書**」を契約時に付すことを提案。藤倉副市長は慎重に判断する、と答弁。

# 12月議会報告・一般質問

## 多摩区役所の雨漏り。見えたのは市全体の老朽化対策の課題。

**Q:** 区民の方から区役所アトリウムの雨漏りをご指摘頂き、雨の日に現場で確認。対策と見通しは？

**A多摩区長:** 区が所管できる軽工事（250万円）の範囲内で止水効果が高いところを優先し**今年度内に緊急工事を実施**する。軽工事を超える範囲は関係局と調整してゆく。

**Q:** 広範囲にわたる修繕。軽工事を複数回ではコスト高となる。一方大規模な修繕はまちづくり局に依頼しても軽く3年待ちの状況。全庁的に劣化箇所を早期発見早期手当できるしくみが必要。チームをつくりパトロールして修繕をトリアージする「**常態監視**」を提案。見解は？

**A総務企画局長:** 庁内共通の点検チェックシートを整備・共有し、全庁横断的な視点で設計・工事の優先判定などに活用してゆく。



区役所・雨漏りの現場

## 若者の声を政策に！多世代の知恵をベストミックスして課題解決を！

**Q:** 多世代での課題決・若者の行政参加を一貫して提言してきた。教育委員会の川崎市子ども会議は発足から20年が経過。幅広い参加の在り方が課題。**GIGA端末を活用し**、児童生徒に「どんな子ども会議が良いか」等アンケートを実施・反映することを提案するが？

**A教育次長:** 子ども会議は子どもたちの参加・意見表明の貴重な機会。20年が経ち環境変化に伴う改善が必要。**GIGA端末を活用したアンケート調査を実施**する。子ども会議の活動紹介も行い子どもの意見を集めやすい手法を取入れてゆく。

**Q:** 子ども若者の声を聞く具体的なしくみづくりが必要だが見解は？若者世代は次元の違う視点と解決策を持つ。政策アドバイザーや、広報・広聴部門に起用するなど幅広い展開を提案する。公約で「若者の声を聞く」としている市長の見解は？

**A市長:** 若者の声は大切な市民の意見。こどもや若者が社会参加できる場を**今まで以上に充実**する。その意見を行政として真剣に受け止め**市政に活かすしくみや有効な手段などについて検討**してゆく。

→ 地球規模の危機から市政の身近な問題まで多世代での課題解決が必須。子どもから高齢者までバランスの良い「**知恵のベストミックス**」を提案。今後も議論してゆく。

## 「環境と観光の多摩区」区制50周年。区民とともに。

**Q:** 多摩区は今年区制50周年を迎える。協働のパートナーである地域と事業主体の橋渡しができるのは区。**多摩区の多彩な人的資源**に今後どう活躍して頂けるか、マネジメントが求められるが区長の見解は？

**A多摩区長:** 区民に身近な行政機関として、様々の機会を通じて、地域の実情、課題、ニーズを把握し地域で活動する方々のつながりを広げていくなかで多世代、多様な方々がともに活躍していただける環境づくりに取り組む。区の一層の魅力向上に努める。

※他に**登戸土地区整理事業地内のパブリックスペースの活用**について、**多摩川河川敷の活用**について（裏面に掲載）質問。公園などパブリックスペースは街の価値を決める大切な要素との認識を共有・事業を進めることで一致。

※他に「**学校におけるハラスメント対策**」について改善を求め、「不適切な関わり」についてハンドブック改定へ！→ 次号で詳細を報告します！



公共空間の活用実験・ミライノバ